

QUARTERLY

ムラタ計測器サービス 社内四季報

VOL.121 | 2023 | WINTER

ムラタ計測器サービス株式会社 WWW.MURATA-S.CO.JP/

MURATA KEISOKUKI SERVICE CO., LTD.



新年のあいさつ

「環境創造企業」を目指して

新年あけましておめでとうございます。

3年越しのコロナ禍によって、日常生活も変化してきました。日本だけでなく、世界各国の大問題となり、働き方に苦労した反面で、リモート等、新しい価値観が生まれた利点もあります。「with コロナ」の生活もありますが、コロナ禍から日常が取り戻されることを願うと共に少しでも前を向いて行きたい思います。2015年の国際サミットから注目を集めている言葉として、「サステナブルな社会」があります。直訳すると「持続可能な社会」他にも「持続できる」「耐えられる」等となり、環境問題から地球の資源を守る合言葉に使われています。もっと簡単に言えば「きれいな空気、きれいな水、きれいな土壌でずっと住み続けることの出来る社会を創りましょう。」という事です。環境測定技術を事業としている当社にとって、成長の後押しとなる言葉です。今までも環境社会は、大きな課題を抱えて、変革を求められ続けてきました。これから先、人類社会や地球環境がどのように変わっていくかは不透明ですが、環境社会の変化を柔軟に捉えて、既往の事業を充実すると共に環境測定に関する分野の知識を拡大して、必要とされる環境測定に迅速に対応できるような「環境創造企業」を目指していきたいと思えます。それには、環境測定に想いを共感する社員一人一人が力を合わせて、知恵を絞り、失敗を乗り越えてこそ、新しい事業が生まれてくるのだろうと考えています。社会やお客様との信頼関係を築き積み重ねる事で、これからも社会に必要な企業として、成長していくことができます。

さて皆さん、初心に帰って考えてみましょう。企業として、社会人として成長する基本となる「欠かせない行動」を次ページ以降 10 挙げてみます。自身の行動を確認してみてください。

NO.1

MURATA の
10 の考え方
version2023

NO.2

新ビジネス創出
の基本

ついつい忘れてしまう初心。経験を積んでいくと視野が広がり、その分、良い行動も悪い行動も学んでいきます。結局のところ、ビジネスの基本は全て対人関係に帰結します。私たちの行動は、周囲に良い影響を及ぼせているか、ムラタ計測器サービスの社員の基本として、常に意識すべき10箇条です。

① 誠実な対応（長くつき合える人間か）

周囲の人間に対して、誠実に接し、相手から信頼される対応が出来ること。

② ルール遵守（ビジネスパートナーとしての信用を得る為の第一歩）

ルール遵守が出来る人は、決められた規則や期限をしっかりと認識し、確実に守り、周囲から信頼されています。

③ マナー意識（いい人間関係を構築していく基礎があるか）

初対面の相手にも好感を得られる、社会人としての基本的なマナー意識を持っていること。マナー意識の強い人は、ビジネスにおいてのマナーを理解して実践しており、礼儀正しい立ち居振る舞い、清潔な身だしなみ、安心感を与える笑顔、きちんとした言葉遣いなど、相手に不快感を与えない清潔さ、表情を適切に身に付けています。挨拶、受け答え、電話対応等の基本的なスキルの獲得も必須です。

No.1 MURATA の 10 の考え方 version2023 (1)



④ チームワーク（チームで仕事をしていくための基本）

メンバーと協調し、他者に積極的に協力します。困っている人がいれば助け、チームの方針を理解して働くことです。チームを殺伐とさせたり、メンバーを不快にさせたりしていませんか。

⑤ 共感力（人の気持ちを察する人は、顧客ニーズを感じる力となる）

共感力とは、他者の気持ちを推し量り、気にかけて、尊重することです。相手が気にかけてもらっていると実感できる言動を常に心掛ける。相手から「この人は自分のことを気にしてくれている」と思ってもらえる状態になれば、色々な人が安心して近づいてくるようになり、信頼できる相談相手として多くの人から認められます。

NGな行動は、他の人の気持ちを気につけない。相手を受け入れない。拒絶する。批判する。

⑥ 伝達力（「報・連・相」のすべてがプレゼンカの基礎になる）

自分が伝えたいことを、わかりやすく相手に伝える力です。口頭で表現するときにもビジネス文書やメールで伝える際にも、要点をしっかりとまとめた確かな伝え方をする。

⑦ 継続力（プロジェクト成功の為に必要不可欠な素質）

逆境や困難があっても、負けずに仕事に取り込み続ける力です。やると決めたことは最後まで取り組み、単調な事でもコツコツ努力を継続する。継続力とは、下積み時代を耐え抜く力のこととも指します。不遇な時期や厳しい場面があっても、決して投げ出すことなく、一人前を目指す。たとえその成果が直ぐに人から評価されなくても、頑張り続けることができるエネルギーの発露が継続力です。

⑧ 創造的態度（新しいことを受け入れて挑戦しているか）

創造的態度とは、どんなことにも広く興味を持ち、好奇心を持って物事を捉えることです。人の出した新しいアイデアや発想を否定せず積極的に受け入れ、発展させようとします。今の自分に満足せず、人からのアドバイスを受け入れる柔軟性、現状が良くなる方法を常に模索する向上心も大切です。

ムラタ計測器サービスは技術サービス業、専門サービス業と呼ばれる業種です。基本理念でも「あらゆる要求に応え得るための研究と開発」を永遠の指針として掲げています。そのためにも、社員個々の学習・成長は欠かせません。成長意欲を持てるチャレンジできる環境を用意していきます。

⑨情報収集（的確な判断をするには、情報を広く収集することが重要）

必要な情報を多方面から入手し、色々な人の意見を聞き、多くの情報ソースから得たものをまとめ、客観的に事実を捉えられる力です。情報収集をおこなううえで重要なのは、収集した情報を一面的にとらえず、多面的に捉えようとする事。偏った判断をしないためには、幅広い有益で十分な情報源を持っていることが必要になります。

推奨行動：同じ分野の複数の専門家との人脈を持つなど、幅広い情報収集ができる人的ネットワークを持ちましょう。集めた情報は、事実なのか意見なのか示唆なのか、過去・現在・未来のものなのか判断し、区別して書き留める習慣を身に付けましょう。

No.1 MURATA の 10 の考え方 version2023 (2)



⑩成長意欲・学習意欲（常に進化し続けられる人間か）

成長意欲や学習意欲のある人は、自身のキャリアにおける目標をできるだけ明確に持ち、そこに向かって自らの能力を伸ばそうと努力します。好奇心を持って自ら能動的に学習し、能力を高めるために経験値の蓄積への努力を怠りません。必要な経験を得ようと、それができる場に自身の身を置こうとします。キャリアや能力の獲得のために常に他者からのアドバイスを求めて成長していくのです。

古くから、心得を箇条書きにしたものはよくあります。有名なところとしては、「近江商人 商売の心得十訓」、会津藩士・基礎の心得「什の掟」、福沢諭吉の「福澤心訓」、作者は知りませんが、「つもりちがい10か条」、「心戒十訓」……。あとは居酒屋のトイレでよく見る「親父の小言」などなど。どの言葉も長い年月の間にブラッシュアップされて、永遠の名曲のようにいつも心に響くパワーワードとなっています。いつも心に響く、ということは、裏を返せばいつも心得を忘れてしまい、基本をなおざりにしてしまっているのかもしれない。

ここで示した10の考え方は、あくまでversion2023の素案の叩き台のアルファ版です（いいすぎか）。当社が今後も社会課題を解決していける企業であるために、どのような心得を持つべきか、また、どのような仲間とともに成長していきたいか、それを各自で考え、皆で心に刻める心得十訓を作っていきましょう（十でなくてもよいですが）。

- ① 誠実な対応
- ② ルール遵守
- ③ マナー意識
- ④ チームワーク
- ⑤ 共感力
- ⑥ 伝達力
- ⑦ 継続力
- ⑧ 創造的態度
- ⑨ 情報収集
- ⑩ 成長意欲・学習意欲

ムラタ計測器サービス株式会社では、「環境創造企業」の理念に則り、人材確保・育成を使命の一つとして取り組んでいます。

例えば外部講習会への参加促進や資格対策講習会を行うなど、求められる知識や資格を社員が円滑に習得できるよう各部署にて様々な教育サポートを行っています。今回は、マーケティングと知的財産（以下、知財と記載）に関して学んだことを紹介させていただきます。

①VUCA 時代の事業開発

現代は VUCA 時代（Volatility 変動性、Uncertainty 不確実性、Complexity 複雑性、Ambiguity 曖昧性）と呼ばれ、常に物事が移り変わっていく時代です。VUCA 時代の事業開発では、従来のような PDCA サイクルのみでは対応できないことが多いため、**OODA ループ**（Observe 観察、Orient 状況判断、Decide 意思決定、Act 実行）と呼ばれる戦略的思考法を組み合わせる必要があります。OODA ループとは組織で目的を達成するための思考法です。観察→情勢判断→意思決定→行動という 4 つのフェーズを 1 方向に進めるだけでなく、状況変化に合わせて柔軟に逆方向のフェーズに立ち返ったり、任意のフェーズからリスタートしたりできる自由度が高い思考法となっています。目の前で起こっている環境に合わせた判断を現場レベルで下すことで、VUCA 時代の目まぐるしい環境変化に適応することができます。また、PDCA サイクルと合わせることで互いに相乗効果が生まれます。

No.2 新ビジネス創出の基本



②知財

知財の種類には次のものがあります。

<知的創造物についての権利等>

特許権（発明を保護）、実用新案権（形状等の考案を保護）、意匠権（デザインを保護）、著作権、回路配置利用権（半導体回路の回路配置を保護）、育成者権、営業秘密（盗用等の規制）

<営業上の標識についての権利等>

商標権（マークを保護）、商号、商品等表示（商標等の不正使用を規制）、地理的表示（GI）

③マーケティング

市場の分析段階からビジネスモデル構築段階に至るまで、様々なフレームワークがあります。フレームワークを適切なタイミングで活用することで、新規事業スタートアップ時にお客様のニーズに沿った成果物を提供できるようになり、失敗リスクを最小限にとどめる効果があります。一般的にフレームワークとは、問題解決や意思決定を行いやすくするために活用する、共通の考え方や思考の枠組み、分析ツールのことを指します。

基本的なフレームワークを以下に 3 つ紹介します。

PEST 分析：自社を取り巻く環境について、政治、経済、社会、技術の側面から思考して状況を把握する手法。

SWOT 分析：自社内外のプラス面・マイナス面について、強み、弱み、機会、脅威の 4 象限に分けて思考し、自社の潜在的なチャンスやピンチを顕在化させる手法。

STP 分析：上記 2 つの分析結果を元に、顧客ターゲット設定や市場での自社の立ち位置を定める手法。

これまで当社で培ってきた技術や知見を元に、どのような新サービスや新製品をお客様へ提供できるか検討・試行する場面で学んだ知識が活用できます。当社は 2022 年に創立 50 周年を迎えました。一方、創業当時から時代は変化し、VUCA 時代と呼ばれるような揺れ動く時代に突入しました。変化の中で当社がさらに飛躍するために、社員が状況に合わせて新しい知識を習得することが求められています。今後も様々な教育の場を用意し、人材育成を続けていきます。